

薩南海域におけるゴマサバの漁獲特性と黒潮の動向

資源管理部 主任研究員 梶島光次郎

【目的】

鹿児島県において、ゴマサバはまき網や一本釣り漁業などで多く漁獲され、鮮魚や加工原料（主に鯖節）、養殖用餌料として重要な魚種となっている。しかし枕崎港での中型まき網によるゴマサバの年間漁獲量は2011年以降減少傾向となり、特に2016年以降は8,000トンを下回り低調に推移している（図1）。そこで薩南海域におけるゴマサバの漁獲特性と黒潮の動向との関係について分析を行い、ゴマサバの漁獲向上の可能性について検証を行った。

【材料及び方法】

まず過去の知見をもとに、北緯31.5°以南の薩南海域を4つの海域（南薩沿岸、黒潮縁辺、黒潮内側、宇治周辺）に区分した（図2）。次に枕崎市漁協における中型まき網の日別漁区別漁船別の漁獲統計を使用し、ゴマサバの漁獲量が低調となった2016年以降の各海域の漁獲特性について成魚と未成魚に分けて検証した。また海上保安庁海洋情報部が公開している経度毎の黒潮流軸通過情報を活用し、2016年以降の東経129°～132°における黒潮流軸の位置と各海域の成魚・未成魚の漁獲特性について比較検証を行った。

【結果及び考察】

ゴマサバ成魚の海域別漁獲割合は、黒潮内側での漁獲が全体の半数以上となった（図3）。月別海域別の漁獲量は1～8月に黒潮内側で最も多く、11～12月に宇治周辺で最も多くなった（図4）。また成魚の1日1隻あたりの漁獲量（以下、CPUE）は黒潮内側と宇治周辺で高くなり（表1）、両海域がゴマサバ成魚の好漁場であることが伺えた。

ゴマサバ未成魚の海域別漁獲割合は、成魚の漁獲割合の少ない南薩沿岸・宇治周辺で漁獲割合が高くなった（図5）。月別海域別の漁獲量は、成魚の漁獲量が減少する8～9月の宇治周辺でまとまって漁獲された後、南薩沿岸でまとまって漁獲される傾向が見られた（図6）。また未成魚のCPUEは宇治周辺で高くなり（表2）、宇治周辺がゴマサバ未成魚の好漁場であることが伺えた。

黒潮流軸の動向は、成魚においては黒潮内側を除く海域でCPUEの動向に影響を及ぼす傾向が見られた。また未成魚においては、黒潮縁辺を除く海域でCPUEの動向に影響を及ぼす傾向が見られた。

以上の結果より、各海域における成魚・未成魚別の漁獲特性と黒潮流軸の動向を考慮し、漁場選択することでより効率的に漁獲できる可能性が示唆された。

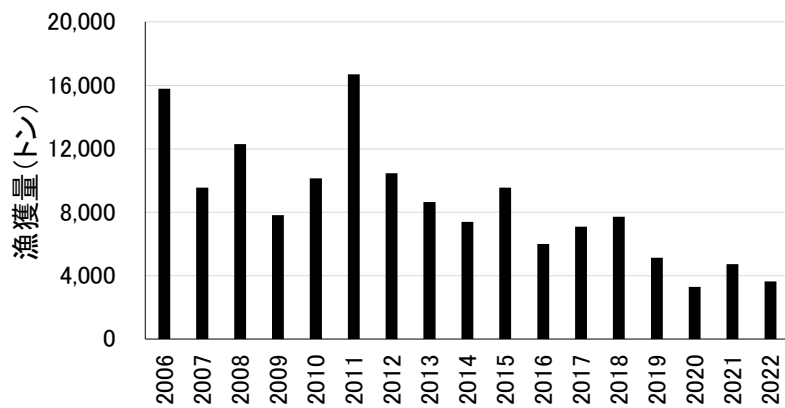


図1 枕崎港における中型まき網でのゴマサバの年間漁獲量の推移

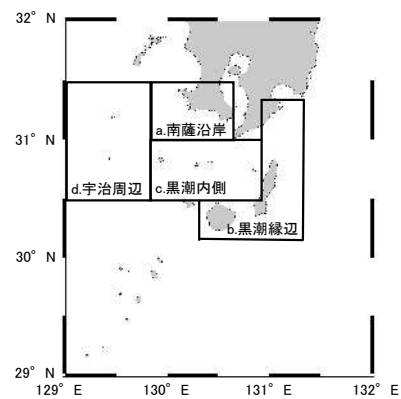


図2 薩南海域の海域区分

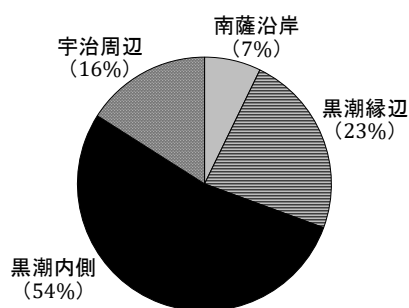


図3 ゴマサバ成魚の海域別漁獲割合(2016~2022年)

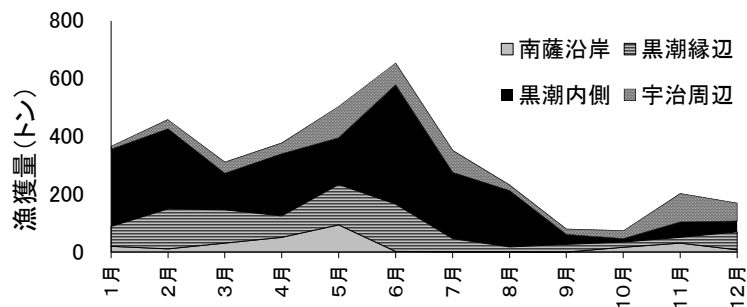


図4 薩南海域におけるゴマサバ成魚の月別漁獲量(2016~2022年の平均値)

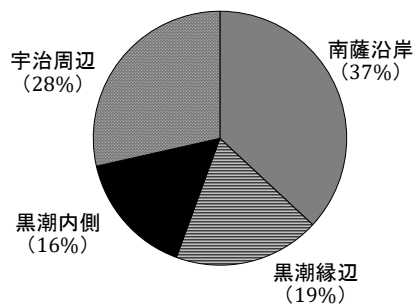


図6 ゴマサバ未成魚の海域別漁獲割合(2016~2022年)

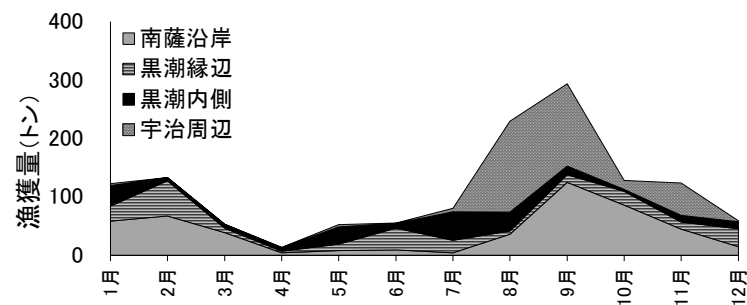


図5 薩南海域におけるゴマサバ未成魚の月別漁獲量(2016~2022年の平均値)

表1 ゴマサバ成魚の海域別CPUE

	南薩沿岸	黒潮縁辺	黒潮内側	宇治周辺
CPUE(平均値)	1,651kg	4,721kg	16,343kg	12,518kg
有漁CPUE(平均値)	5,834kg	8,950kg	19,630kg	23,749kg
CPUE(最大値)	117,078kg	103,894kg	119,250kg	172,170kg

表2 ゴマサバ未成魚の海域別CPUE

	南薩沿岸	黒潮縁辺	黒潮内側	宇治周辺
CPUE(平均値)	2,997kg	1,341kg	1,725kg	8,067kg
有漁CPUE(平均値)	6,031kg	4,072kg	7,287kg	15,131kg
CPUE(最大値)	123,390kg	56,160kg	61,306kg	99,720kg